

拝啓 今年も早や9月下旬となりました。お変わりございませんか。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。秋の最も良い時間の頃となりました。近所の公園ではもうすぐきんもくせいが、甘い香りを漂わせながら咲くでしょう。

今月は、石館守三先生の文章の12回目です。同志会OBの村上劉治さんが編纂された資料「石館守三先生金曜会語録」からの引き続きの引用です。

9月17日午後、富山県の小杉高校に招かれ、生徒たち480人と先生、同窓会の方々を対象に、「南原繁先生の生涯に学ぶ—出会いの大切さ—」という題で講演して来ました。1時間の講演を生徒たちが一生懸命聞いてくれました。後で、2年生と3年生の生徒たち数人と懇談会方式で質疑応答の時間を持ちましたが、良い時間でした。

9月18日、富山を早朝の列車でたって、長野県上田市にある無言館という戦没画学生の遺した絵画を集めた美術館に行きました。十字架の形をした建物に、学徒動員で戦争に行き、戦没した美術学校生徒の遺作が収められている美術館でしたが、大変感動する美術館でした。2年前、館長の窪島誠一郎さんの、なぜ無言館を建てたかという講演を聞いて以来一度訪ねたかった美術館でした。ずいぶん交通不便なところにある美術館でしたが、美術館を見た後、バスを待つ間にたっぷり時間があり、思わぬ豊かな時の流れを経験しました。

9月23日は、学士会館で、新渡戸・南原賞委員会主催のシンポジウム「新渡戸・南原と現代の教養」という題のシンポジウムを主催し、私も「南原繁の今日的意義」という題で30分講演しました。北方領土、竹島、尖閣列島の国境問題を決着させてロシア、韓国、中国と平和条約を結ぶこと、その際ポツダム宣言が基礎であることを話しました。さらに、集団的自衛権の行使容認は、北朝鮮がらみで中国、北朝鮮の軍事同盟と衝突する可能性があること、台湾の関連で中国との戦争に巻き込まれる可能性があることを警告しました。そのほか、一般教養の必要性、宗教の重要性、現実的理想主義などについて話しました。このシンポジウムは11年続いた新渡戸・南原賞委員会（昨年までは新渡戸南原基金）の最後の仕事でした。鴨下先生に導かれて、賞の出し方、懇親会パーティーのやり方など、いろいろなノウハウを身につけさせて、頂きました。

それでは、皆様、これから1年で一番気候の良い時期となりますが、どうかお身体ご自愛の程、祈り申し上げます。 敬具

平成26年9月25日

山口周三

エンカウンターの読者各位